



愛知県板金工業組合
発行広報委員会
名古屋市昭和区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

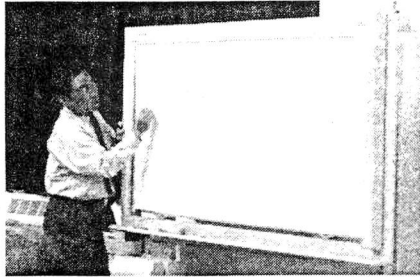


基幹技能者 講習会開催

59名受講

6月5・6日の2日間、クボタ松下電工外装株式会社名古屋営業所3階研修会議室にて中板協主催で開かれた。

平成14年度より始まり、名古屋・石川・静岡の3会場でこれまでに115名が受講。今回も名古屋会場で59名が受講。これで174名の基幹技能者が中



▶ 講義をする高柳一男氏



▶ 講習会風景

部ブロックで誕生した事になる。当初は全国で千名を目標に、国土交通省より認定が下りる事になっていたが、2千名に変更となり、認定の件も先行き不透明である。

基幹技能者創設の原点は、



▶ 修了証と認定書を授与する中板協竹野茂会長(右)

建築板金業の専門的な業種的地位を確立
以上の3点を基本理念に
基幹技能者講習会を行っている。

① 一級技能士である事

② 労働安全衛生法による次の資格取得者である事

1. アーク溶接作業特別教育修了者

2. 玉掛技能修了者

3. 高所作業車運転技能修了者

4. 職長・安全衛生責任者教育修了者

③ 所属事業所が県板の組合構成員であって、理事長が受講対象として適当と認めた者である事

(尚、①と②については、近いうちに取得可能な人は、理事長判断で受講できる)多くの資格と初めて学ぶ科目に受講者も大変だと思う。今回の講習会で目に付いた事がある。受講者の年齢が低くなった事。数年前に名古屋訓練校で教えた訓練生の兄弟がいた。終了試験も合格し、

基幹技能者修了証と屋根外装調査士の認定証を受取っていた。しかし、先に書いた4つの受講資格の一つが欠けても修了証は出ない。今回も、愛知県の受講者29名中8名が修了証を受取れなかった。兄弟そろって基幹技能者になれた例もないと思う。

こうした若い後継者が、基

幹技能者や屋根外装調査士の資格を公的に活用できる時代が一年でも早く来る事を期待する。

11月には、静岡での開催を予定している。

次回講習会には多くの参加を希望する。

松代

委員会報告

技能委員会

開催日時 6月11日3時より

出席者 13名

(1)平成16年度技能検定試験の実施計画書及び検定委員・補佐員について

・7月18日の実技試験について、日程・役割分担・受付事務・試験中の注意事項等を検討し決定した。又、道具について、使用して良いものと不可のものを細かく規定した。さらに、翌日の採点についても打合させた。

・使用可の道具
パチケガキ針

組織

ハゼコシ

呼出し(作っても良い)

ミゾなしタガネ

使用不可の道具

コッキ

平行定規

・責任者

佐藤忠雄(一宮)・加納重幸(岡崎)・長谷川信俊(中)

・検定委員

伊藤勇(豊田)・今井文夫(江南)・浅井裕一(中)・中村幸成(岡崎)・松野茂(熱田南)・高柳三郎(岡崎)

2頁へつづく

1 頁よりつづき

・中立検定委員

江本省悟（名古屋高等技
術専門校）

・補佐員

縦山泰弘（豊田）・長田

詔市（中川港）・江口

優（東三）・湯浅伸明

（一宮）・中村元保（岡

崎）・野田和彦（知立）・

榊原勝義（幡豆）・井藤

和美（西春）

・お手伝

名古屋

板東司士・水谷修司

西三 加納道弘・山本和義

知多 竹内廣幸・平野安雄

東三 菅沼秀行・平松賢治

・事務員

山内和夫（岡崎）

厚生委員会

開催日時 6月18日3時より

出席者 11名 欠席3名

審議に入る前に、沼澤委員

長と齋藤理事長の挨拶があり、

理事長は、全板長崎大会にお

いて、愛知県板が国民年金基

金への新規加入者数全国1位

で表彰を受けた事について、

厚生委員会の努力に感謝した。

(1) 福利厚生関係の諸問題の検
討について

16年度も、県板共済制度と

全国板金業国民年金基金への

加入促進を第一目標と定め、

全板国保、労働保険加入強化

運動、スーパードール保険等へ

の加入促進は随時必要に応じ

て対応する事となった。

・県板共済（太陽生命）加入

促進について

6月1日現在の加入率は

45・2％で前回より0・8

％アップした。今後は60％

以上の加入率を目標とする

事となった。この目標達成

の為に110名の新規加入者

（事業所）が必要となる。

その為に、各委員会の委員

さんには全員加入してもら

う。又、年令が低いほど掛

金が安いので、特に若い人

達に加入を呼びかけていく。

・全国板金業国民年金基金へ

の加入勧奨について

4月20日現在の新規加入

者は15名あり、全国一位で

表彰を受けた。

加入対象者は、板金業に

従事している20歳以上60歳

未満の個人事業主、その配

偶者及び従業員となってい

る。全板国民年金について

の問い合わせ等はフリーダ

イヤル0120・34・1

165（全板国民年金事務

局）へお願いしたい。

・全板国保について

市町村の国保に加入して

いる組合員に全板国保の利

点を説明し、切替を勧めて

いく。

①20歳未満の従業員組合員

の保険料が5千円に引き

下げられた。

②健康診断の助成は組合員

本人が1万5千円、本年

度より配偶者も1万5千

円に引上げられた。

③人間ドックの助成は組合

員で40歳・45歳・50歳・

55歳・60歳・65歳の方

年1回、実費の2分の1

（5万円限度）

④糖尿病検査は40・69歳の

組合員と家族は無料。

・課税標準額調査について

調査目的は、今後の全板

国保組合に対する国庫補助

の算定をする為である。全

板国保加入世帯の約6分の

1が調査対象であり、該当

世帯は協力してもらいたい。

答えが少ないと、補助金が

少なくなる可能性がある。

保証委員会

開催日時 6月24日3時より

出席者 5名 欠席6名

(1) 保証制度のステッカー作成

について

4月27日の理事会にてス

テッカーのデザインは承認さ

れているので、今回はその配

色について検討した。バック

は愛板マークと同色のグリー

ンとする。愛知県板金工業組

合の文字は赤色、その他の文

字は白抜きとする事に決定し

た。これを7月14日の理事会

までに作製するよう印刷所に

注文する。

配布方法は、保証制度適用

の事業所に4枚（1枚250円）

を千円の有償で購入してもら

い、各支部長に集金をお願い

する。

(2) 16年度保証事業計画につ

いて

本年度は全板愛知大会の準

備で忙しくなるので、保証制

度に関する講習会は計画しな

い事に決定した。

(3) 保証申請の促進について

本年度も前年に引き続き、

保証書発行件数が全国で2位

又は3位を維持できる様に努

力していく。又、申請者数150

名を目標に申請を呼びかけて

いく。

(4) 05全板愛知大会用保証制度

(旗)の内容の件

全板大会の会場の回りに数

多くの保証制度PRの「のぼ

り旗」が立てられている。愛

知大会には愛知県板独自の旗
を立てる事になっているので、
旗の色や文字等について検討した。100本作る予定で見積を
依頼した。

全板大会企画部会

開催日時 6月8日3時より

出席者 12名 欠席4名

(1) 支援及び後援名義の申請に

ついて

・支援を愛知県と名古屋市に、

又、後援を報道機関や業界

の関連諸団体に正式に依頼

する。

・後援名義の申請は、全板連

と愛知県板とで分けて申請

する。

(2) ポスター作成について

・前回の部会で決まっ

た2種類のポスター

見本が出来ており、

協議の結果、背景

は名古屋城とする

事に決定した。

・文字についても、

位置、大きさ、色

を決めた。これを

もとに再度見本を

作成することに決

定した。

(3) 「しおり別冊」の

広告掲載について

・広告依頼先リスト

が示され、その外



▶ 企画部会の会議風景

愛知県技能士会連合会 平成16年度 通常総会

愛知県技能士会連合会は六月九日、平成十六年度通常総会を「名古屋クレストンホテル」に於いて開催した。

この日、正会員八十三団体（会員一、三九九名）と賛助会員七十九会社の代表が参集、愛知県板金技術協会理事長と長谷川板金技術士会長が出席。

定刻、開会挨拶に続き会長挨拶、来賓祝辞ののち議長を選任して議事に入る。

上程された一号議案・平成十五年度事業報告、収支決算書から四号議案までの案件すべてを和出専務理事が一人で読み上げ、質疑もなく全員拍手で承認された。

今年度の事業計画書によると著名な講師を招いた講演会、技能知識の向上に県内県外の見学研修会、あいち技能プラザ、技能グランプリ、全技連マイスター称号授与に向けた技能者の推薦、親子ふれあい技能教室開催など技能士の技能・知識・社会的地位向上を図る盛り沢山の企画がされている。

今回の記念講演会は「名和昆虫博物館館長・名和哲夫氏」を招き「昆虫から学ぶ自然」虫たちの美しさは、いるべき自然の中で最高の輝きを放つ」と題してユニークな昆虫の世

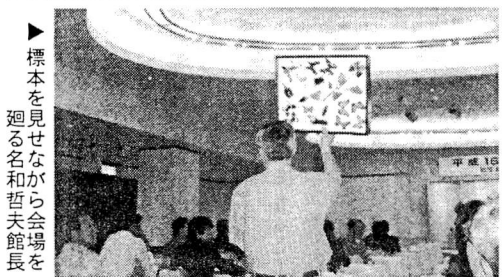
界を拝聴した。

名和昆虫博物館は岐阜市大宮町・金華山のふもと「岐阜公園内」にある。明治二十九年、初代館長・名和靖氏が農業害虫の研究と駆除を目的として開設した名和昆虫研究所が博物館の母体で運営されている。日本国内にいくつもある昆虫博物館の中でも活動規模・展示種類・数量などトップクラスである。名和哲夫氏は愛知県西尾市の出身。昨年二月逝去された四代目館長の後を継ぎ五代目館長に就任された。先代も哲夫氏も婿養子で氏のお子さんも娘さん一人だから自分が捕まっただけに早く蜘蛛の巣を張り巡らせて六代目の婿養子をつまみ食いしないと博物館の存続が危うくなると笑われる。氏が昆虫に魅せられこの分野で生きてゆく決心をさせたのは美しいチョウとの出会いであった。このチョウこそ「私の人生の師」と言うべき存在となった。氏の流暢な話術に引き込まれながら、自分自身日頃の生活の中で昆虫の事など気にしないで過ぎていたのが、虫の働きにより自然の法則が保たれていることを改めて考えさせられた。

人間と共生する虫たち全てが昆虫ではない。足は六本、

胴体は頭・胸・腹に分かれ、羽根は四枚。これが昆虫の定義である。したがって、蝶・蜂・ゴキブリは昆虫。蜘蛛・ダニ・むかでは昆虫ではない。悪の代表格ゴキブリ、台所にいるのは二・三種類で後は野山で落ち葉などを腐葉土にする働きをして自然保護に役立っている。「蝶々は綺麗でいいがゴキブリはだめ」は自然界では通用しない。人間は生きて行くため繁栄をさせ様とする本能がある。少々の開発は仕方が無いが、自然破壊は極力抑えなければならぬ。

春の女神「ギフチョウ」の美しさは並ではない。餌の植物カンアオイの量と蝶の数のバランスを見守る心が自然界の繁栄に繋がる。一時間半にわたって昆虫と自然・人間との生活など後味のすっきりした興味ある講演であった。



標準を見せながら会場を廻る名和哲夫館長

50周年を祝う

愛知県板金総合職業訓練協会 愛知県板金技能専門校

訓練協会が運営している、愛知県板金技能専門校は創立50周年をむかえ、その記念式典が6月13日に名鉄ニューランドホテルにて開催された。

式典には訓練校の修了生や役員、講師の他、愛知県と名古屋市の課長をはじめ、関連団体や商社より多数の来賓が出席した。当愛知県からは齋藤理事長が出席した。

式典では竹内副校長の開会の辞につづき、訓練協会会長の長谷川信俊氏が挨拶し、その中で昭和29年



▲式典で挨拶する長谷川氏

▲齋藤理事長より感謝状



▲祝宴で挨拶する井藤氏

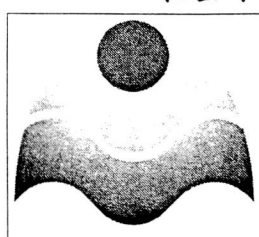
に板金工養成所としてスタートして以来、現在に至る50年間の経緯を述べた。来賓祝辞の次にいくつかの感謝状の贈呈が行われた。愛知県板金技能専門校は、これには9名の会員に齋藤理事長より手渡された。

式典終了後、同じ会場にて祝宴も開かれた。ここでは校長の井藤和美氏が挨拶し、訓練生の減少を訴え、一人でも多く入校させてほしいと述べた。

県板事務局 夏期休暇のお知らせ

日頃は、組合事業にご協力を賜り有難うございます。
県板事務局は、8月12日(木)から8月17日(火)までお休みさせていただきます。

05 全板愛知大会 ロゴマーク



2005 愛知
全国建築板金業者大会

上段〔赤〕は太陽、中段〔緑〕は風、
下段〔青〕は水を表す。

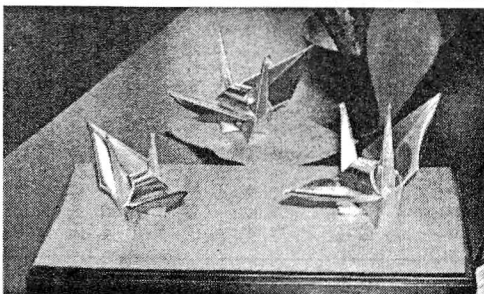
銅板折り鶴勉強会

最近、にわかに話題となっている銅板折り鶴の勉強会を、6月27日(日)、豊橋高等技術専門校にて行った。

講師を岡崎支部にお願いしたところ、山内氏、高柳氏、山本氏、中村氏の4名が豊橋まで出向いてくれた。



▶ 山内氏から手ほどきを受ける受講生達



▶ 完成した鶴

先生の指導の元、型を作った後、厚さ0.15mm・5寸角の銅板にけがく。その後、つかみなどを使用し折っていくのだが、実際やってみると、なかなか難しい。最初に出来上がった作品は、あまりにも可哀相な「鶴」になってしまった。それでも回りをみると上手に出来ている人もいた。終了までの約5時間で、私は4ヶ作ったが、それでも最後の作品は何とか鶴らしくなった。

今後、上手に作れる様になり、仕事をさせて頂いたお施主さんにプレゼント出来ればと、夢ふくらませ帰路についた。

(参加者36名)

東三 松浦



彩りと香りのゆり園

久しぶりの、晴天に恵まれた日曜日(6月13日)の朝、花博にでもと友人3人を誘って近くの喫茶店で相談の結果、渋滞と混雑が予想される花博は止めて、先日、テレビで紹介されていた、伊勢の新名所「伊勢志摩ゆりパーク」へ行

く事にした。梅雨の中休みで車窓からの、からっとした風がこころ良かった。伊勢道に入ってサービسرائアでパンフレットと道案内を聞いて「伊勢インター」を出て167号線を磯部方面に向かった。志摩ゆりパークは、

道の駅「伊勢志摩」の隣に最近出来たばかりで、駐車場より園の入り口に近づくにつれて、今が最盛期の「ゆり」の甘い香りと、一面に彩り鮮やかな花園が広がっていた。園内には400種(70万本)ものゆりが香り高く咲き誇り、緩やかな山の斜面の色のコントラストが素晴らしい。園内には大きな温室が3棟あり各種に名前が付いた鉢植え

▶ 一面のゆり園
(カラーでないのが残念)



熱田・南 伊藤

が展示されていて、種類と色の多さに驚かされた。しばらくして、友人の一人が目が痒くなり鼻がムズムズしてきた(百合花粉症?)と言いつつ出たので早めに園を出た。遠く入り江の向こうにはスペイン村を望む事が出来た。ちなみに見頃は6月中旬だそうです(開園は7月上旬まで)。来年のこの時期には又、訪れたいものです。

6月各支部の動き

千種支部	13日 支部会	2名
東北支部	12日 定例会	6名
西支部	24日 定例会	9名
・折り鶴講習会について		

昭和支部	8日 月例会	12名
瑞穂支部	1日 支部会	21名
熱田・南支部	17日 月例会	6名
他	・秋の親睦旅行について	
春日井支部	8日 定例会	12名
津島支部	5日 定例会	8名
江南支部	15日 定例会	5名
碧南支部	10日 役員会	10名
豊田支部	8日 50周年委員会	10名
刈谷支部	11日 定例会	
東三支部	7日 定例会	22名
豊板青年部	27日 折り鶴勉強会	36名
・総代会の報告、他	13日 第1回 幹事会	

編集後記

銅板折鶴の講習が全国各地で行われている様だ。愛知県内でも、岡崎と豊橋で開かれた。8月には名古屋で予定されている。

以前、銅板の打出しと着色の講習があり、多数の組合員が受講した。しかし、この技術を身につけても、利益に結び付けた人はまず無いだろう。中には施主にお礼として、家紋を打出し、差し上げるといふ人がいる。

今回の折鶴は施主や知人にプレゼントする人が多いのではないかと思う。悦ばれることにちがいないだろう。しかし、この様な加工技術が無償か、それに近い事で良いのだろうか。

少しの経験でも出来る簡単な取付作業では利益を得られるが、むづかしい技術を要する仕事は儲からなくてもしかたない。取付屋的な発想ではそうかもしれない。

加工屋の考えは、そうではなく、他社では出来ないむづかしい製品でこそ利潤を得ようと努力している。

六月二十九日(火) 晴
三九五号 編集会議
広報委員 六名出席
午後二時半開会五時十分閉会